

知事記者会見（平成23年6月3日）

●知事発表

（1）公務復帰にあたって

●幹事社質問

（1）知事の公務復帰について

時間：13：15～14：15

場所：第一応接室

（幹事社）

まずは、公務復帰おめでとうございます。

（知事）

ありがとうございます。

（幹事社）

最初に、冒頭、知事からメッセージがあるということなので、お願いいたします。

（知事）

4月12日、記者会見の最中に体調を崩し、その後入院をいたしまして、今日で52日ぶりの役所であります。

私も若干反省すべきところがあり、もともと体が頑丈だということで少し過信をしすぎていたと思います。3月11日、議会のちょうど閉会のご挨拶の最中に地震が来てから、ほとんど休んでいなかったのですが、それは別に理由ではなくて、お医者さんからいろいろとお聞きしますと、あまり誇らしいことではないですが、一言で言うと食べ過ぎ飲み過ぎということで、お酒そのものは血圧には余り関係ないそうですけど、どうしてもたくさん食べ、塩分の摂取がちょっと多かったということです。

市長時代からほとんど休みなしで来て、体のバランスがちょうどあの頃に（崩れた）ということで、記者会見の最中で良かったと（医者に）言われました。

発症して30分ぐらいで脳研に行き、すぐ点滴みたいなものを注入されて、それから止血剤を体内に注入され、一瞬で出血は止まったということでした。3時間過ぎると後遺症が残る。程度にもよりますが、3時間以内だとリハビリで普通の状態に戻るということで、私の場合は30分以内で非常に幸いしたということです。

この間49日入院をし、新年度の準備、大震災の対応等の状況の中で、皆さんに大変ご

心配をおかけしました。県民の皆様からも、いろいろなお励ましの言葉、お見舞いの言葉、あるいはメール等々、たくさんいただいております。また、被災地の宮城の方から手紙をいただき、「秋田の援助ありがとう。知事さん早く治って」という、大変胸が熱くなるようなお見舞いの手紙もあり、皆様には大変ご心配をおかけいたしました。

議会が終わった後であり、大きく公務には支障はなかったかと思いますが、大切な時期でもあり、物理的なことについては、副知事あるいは部長方に代理をさせなければならず、そういうことも大変申し訳なく思っております。

リハビリは（病気に）なった人でないと分かりませんがかなり大変です。相当やる気を起こしてやらなければならず、私なりに必死でリハビリをしました。皆さんもできるだけ塩分控えめの食事をしていただきたいと思います。この病気になると必ずチェックされるのですが、ちゃんと読めるかどうか文章を読ませられる。頭の中身を調べるときにはMRIもやりますが、知能テストもさせられます。非常に優しいのからだんだん難しくなる。幸いこちらの方は良かったのですが、左の手と足の外側が半分ぐらいの運動能力でした。退院する時点で同じようなチェックをしましたが、ほぼ9割まで戻っているということでもあります。さっきちょっと走ってみましたが、あの程度の走りはできます。階段の上り下りは、上りは普通にできますが、ただ下りが、左足が踏み外す可能性もあり、あせると危険なものですから、ゆっくり下りなさいと。腕の方は、実は相当ウエイトトレーニングしました。最初、握力がなくなって力もなくなったのですが、握力の方は大体7割戻りました。問題は指先がまだちょっと。針を通すとか、ボタンを左手で止める、これがちょっとまだ難しい。ただ、通常はほとんど左を使うことはありませんし、御飯も普通に食べられますし、左手で物も持てますので特に問題ないということですよ。

出張したときにどうなるのか、これも理学療法士、作業療法士の先生方からチェックをしていただきました。（病院内に）ホテルと同じようなバスルームやサニタリーがあり、そこで一人で全部できるかどうかのチェックにも合格しましたので、出張してもいいということですよ。左足の小指と薬指に若干感覚障害が残っており、これは圧力を感じるのがちょっと遅い。傾いたときに、そのことが分かって体を直すのがちょっと遅いです。左に転びやすいので、気を付けて歩きなさいということよ、これは中の出血が大体溶ければほぼ大丈夫だと。3、4カ月かかるということですよ。

あと余談ですが、病院で先生に、「お酒飲めますか」と聞きました。後で看護師さんに「1回にどのぐらいですか」と聞かれたので、「毎日平均5、6合」と言ったらびっくりされ、退院のときは「週2日ぐらいは休肝日を設けて3分の1ぐらいにしてください」と言われました。ただ、出血が完全になくなるまで、お酒は秋の風が吹く頃まで我慢してくださいと。運動はゴルフぐらいですが、「ゴルフはやれますか」と言ったら、「足が大丈夫になるとやれるけれども、まだ転びやすくなっているから、もうちょっと鍛えて来年まで延ばしてください」ということでした。来年になるとゴルフがやれそうですし、秋になるとお酒も飲みそうです。公務には支障はないのかなと思っておりますが、付き合いがいい方なものですから、遅くまでのお付き合いは、通常健康管理の中でやっていかなければならないと思います。

仕事のことで少しお話しします。入院3日目に出血拡大することはないだろう、ただ、この病気は10日間は安静にということでした。3日目あたりから、重要な決裁について

はやっていましたし、いろいろな報告は受けていました。4月12日に入院して、23日からは病院内で公務をしてもいいということで、会議室をお借りし（補正予算の）査定をやったり、1日1回は秘書課長や担当の課長・部長が来て指示を出し、重要なことについては私の耳に入り私の判断でやると、そう指示をしながら業務を進めたということであり、大きな齟齬はなかったのかなと思っています。ただ物理的に、いろんな会議等に出られなかったものですから、この部分はこれから取り返したいと思っております。

まずは重ねて皆様にご心配をおかけし、これから体調管理を万全にいたしまして、最大限努力してまいりたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。ありがとうございました。

(幹事社)

公務復帰の関係で幹事社から何点かお伺いします。

知事がおっしゃられたように感覚障害もほぼ戻られ、公務に支障がないということでした。ただ、今後の公務の数を減らしたりとか、出張の、海外出張も含めて制限されたりとか、そのような影響というのはどうでしょうか。

(知事)

夏ぐらいまでは極端なハードスケジュールについては（控えますが）、秋になると普通の状態になるだろうと。ただ、外へ行くとまた飲み過ぎ食べ過ぎになるのでその点を控えること、出張したときに慌てて転んだりすると困るので、気を付けて歩きなさいと言われております。

(幹事社)

特段、公務の数を減らしたりとか、そういうことはないわけですか。

(知事)

数ではなくて、最後までお付き合いすることが多く、それは私の体調管理のまずさですので、節制をしながらやると大丈夫だと言われました。

(幹事社)

あともう1点ですが、今後の県政運営にもかかわってくると思いますが、入院されていた間に知事も今おっしゃったように物理的に病院から動けないということがあって、この震災復興が急がれる中、秋田県の実感がなかなか発揮できてないのではないかという意見もあるのですが、先ほど知事も何とか挽回したいとおっしゃいましたけど、具体的にはどのような。

(知事)

今回の大震災の復興構想会議でいろいろ概念的なことが出てます。検証してみますと、我々が今までやってきた路線が一番正しく、それほど新しい要素がない。今までの我々の流れが復興構想会議の流れと、ぴたっと来るのです。アメリカ一辺倒ではなく、日本海時

代というか、日本海沿岸の港湾機能、道路交通、さらには様々な拠点的なものについて、太平洋側と日本海側のバランスについては、これまでも話をしております。また、自然エネルギーについても取りかかっていたし、トータルとしては全く今までの路線で進めてまいります。

4月11日にちょうど仙谷さんと枝野さんのところに、北海道東北知事会議の陳情、要望に行ったときも、秋田の2つの発電所の残存用地（の活用）について強くお話しし、東北電力さんにも行ったわけです。入院する前にほぼ布石は打っておりました。孫さんの話は入院先で聞いたのですが、これは直ちに副知事に全面的に秋田も参加するということについて指示を出しましたし、現地の情報は入院していて良く分かりました。秋田の産業界がどういう状況で動いているのかについて、お見舞いに来ていただいたとき知り合いにいろいろお聞きしました。この6月補正で新しく私の指示で予算化を検討させているものもあるわけですし、皆さん方の新聞を隅から隅まで見て、テレビもずっと見ていて、非常に情報は入ると思いました。そういうことで、様々なネタは仕入れており、それを活用できると思います。

それから、復興のビジョンは全くできてない。2次補正なども、プレゼンスは必要ですけども、この後に及んで秋田にこれをやってくれ、これ買ってこれというのはいかぬ。ただ、そうあるべきだというのはいい。ですから、あるべき論は、堂々とこれからもやっていきますけれども、何か火事場泥棒みたいに（行動するのはいかになものか）、どうも日本の政治が全部おかしくなってるのはそこなのです。アピールが中心だけれどもアピールして何もできないことが一番駄目。アピールせずにやるのが本来の政治です。アピールだけで何もやらないのが今の政治で、日本、国政の体たらくは正に目立ちたがり屋だけの集まりだからあのようなになる。静かにやればいいのに、やることをやってない。そういう意味からすると、抜かりがないように病院から指示を出したつもりであります。

(幹事社)

では、公務復帰の関係で各社さんお願いします。

(記者)

体調の関係で何点か。知事の方からも食べ過ぎ飲み過ぎ、塩分取り過ぎという話がありました。これは、ご自身でもそう認識されているし、医師の方からも指摘があったということでしょうか。

(知事)

不幸にして酒が強過ぎたというか。先生も酒と血圧は直接関係ない、酒を飲み過ぎると、どうしても塩分を取り過ぎる。そちらに気を付けてくださいと言われました。

うちのかみさんから叱られましたが、知事になってから太った。最終的に昨日測ったら約10キロやせていました。そうしましたら、市長になりたての頃の背広がちょうどいい。知事になってからの最近の買った背広はだぼだぼ。ですから知事になって、油っこいものを食べて酒を飲むと、やはり肥満係数が上がり、私も非常に反省しております。健診はしていますが健診しっぱなしです。健診の結果をそのまま受け流しており、これは私の体調管

理のまずさです。しっかり体調を整えてベストコンディションで仕事をしていきたいと思っています。

(記者)

若干の感覚障害が残っているということですが、いつ頃までには完全回復の見通しでしょうか。

(知事)

例えば実生活でたくさん歩く、指先を多く使う、こういう中で大体半年ぐらいで治るそうです。どちらかというと、手の方が若干遅れるだろうということでした。たくさん歩きなさいと言われました。そうすると早く筋肉もつくし、それから手もたくさん使いなさいと。日常生活でもなるべく左を使うことにしました。このレベルの出血量では発症から大体半年ぐらいで治るそうです。

(記者)

10月ぐらいにはということですか。

(知事)

お酒の方も10月ぐらいからはいいだろうと言われました。

(記者)

リハビリに関しては、日常歩くというのとは別に、プログラムを組んだりリハビリは、今後も続けていかれるのでしょうか。

(知事)

病院のリハビリは特に必要ない、ただ、チェックはしますと言われました。1か月に2回程度、病院に行って診てもらう程度でいいということでした。

(記者)

当初知事が入院して、県の発表が知事の病状について少し齟齬があって、県民は非常に混乱した面があると思うんですけれども、その件については。

(知事)

一番最初に心配したのが、知事としての任に耐えるかどうかということで、先生に聞きましたら、まずこの程度の出血で止まると大丈夫だということでした。疾患が脳に残るということは言動障害と思考障害になりますので、そういう意味ではないということではなかったかと思います。もう一つは、先生方は守秘義務がありますので、外にはそうはっきりしたことはしゃべらないです。カメラの前でおかしくなったものですから別に隠す必要はない。結果としてこういうふうに来ましたので。あれが本当に疾患が残ると多分ここには来られなかったでしょう。知事としての任に耐えないくらいの疾患があるかどうかとい

う意味の解釈ではなかったかと後では思っていますけども、ただ、その段階で私は面会謝絶でしたので、どういう状況かちょっと（申し上げられません）。

(記者)

知事が職務代理者を置かなかったのは病室から指示が出せるという判断だと思いますが、それについては。

(知事)

議会では、ある一定の問題があって議会から呼び出しがあると知事が直接やり取りしなければならぬ場合もあり得るわけです。その他の業務については病院で24時間連絡が取れる状態で、すぐ近くですので、私から指示が出せるし、連絡が取れる状態ということで、毎日、秘書課長からその日のあったことを全部報告を受けていますので、外に出られないけれども実際には仕事はできたということです。

(記者)

公務復帰されるということで、今後、海外の出張の際に乗り物に乗る機会があると思いますが、特に気圧の変化、例えば飛行機などに対しては支障はないのでしょうか。

(知事)

実はいろいろ調べると、前の状態よりよくなっています。尿酸値も減りましたし、ガンマGTPだとか肝機能も全く正常になっていて、体の中の状態はむしろ正常になり、血圧も全くいい状況で内臓疾患もないものですから、頭の方も固まっていますので、状況によって病状が変化するという事はないのではないかと思います。特にそこは制限されてません。ただ、とにかく出張するとたくさん食べて飲み過ぎるので注意なさいと、それは非常にたくさん言われました。

(記者)

体調が戻られましたら、海外出張とか国内出張は。

(知事)

します。国内出張も、6月議会が終わる頃に、来年の予算編成があり、国に行かなければならないし、東京出張もどんどん今予定が入ってます。

(記者)

昨日コメントもお出しになりましたけども、改めて、国のこの体たらくというか、この状況について考えられることと、それから復帰されてこれから秋田が被災地の復興その他できること、しなければならないことは何なのか、この2点について伺います。

(知事)

昨日、不信任案は否決されましたが、むしろあの不信任案が出る状況よりまだ悪くなっ

ている。鳩山さんはペテン師だという言い方をしています。政治の世界じゃなくて、誹謗中傷、あるいは大人気ない喧嘩みたいで非常に醜い。国民はうんざりしていると思います。

3月11日の直後から、我々としてはその日のうち取るべきことは取って、例えば食料支援なども現地の状況を見て、我々の判断でできることはどんどんやっている。ところがさっぱり国の姿が見えない。私も現地に行きましたけども、みんな異口同音に国の姿が見えないと。この状況がまだ続いています。

それから政治主導の使い方が全く違います。原発の問題で、そもそも政府が、ベクレルとかミリシーベルトとか、自分で知らない人がしゃべっているのはおかしい。政治主導で官邸がコントロールできるような筋合いのものではないです。官邸は、危険性がある地域の避難箇所を設定し、自治体と協働してそこへ避難させるとか、予算は国が十分に出すから最大限のことをさせるとか、あるいは原子力の問題は、核を持っているところが、それを想定していろいろなことをやっていますから、そういうことに長けたアメリカやフランスに頼むとか、それが政治主導です。最近の政治は、中身まで自分でやろうとする。知らない人と分からない人が議論すると、もっと分からなくなる。高い所に全部住宅を移して、復旧ではなく復興だと言っています。でも、私が3月26日に気仙沼に行ったときに聞きましたが、高台は全部、不動産屋が買っています。そういう状態は現場で聞き取りしなければならない。とにかく現場感がない。復興構想会議で、財源の問題を、あの方々に決めろというのもおかしい。むしろこういうときは独断で決めた方がいい。独断で決めながら責任を持つということが全くされていない。政治主導ではなく官僚主導で競わせた方が遙かに復興は早い。そのかわり、自分の省庁の利益だけを求めるようなところに、目を光らせていけばいい。ほとんどの各省庁は自ら動いてないでしょう。ノウハウとパワーがある現場が動かないとどうしようもない。これが非常に不幸なことです。ごみの瓦礫を県に引き受けてくれと言われて、我々も県でこれだけ引き受けられると言っていますが、その後、何も音沙汰なしです。こちらで重機を、何十台、出しますと言っても何も音沙汰ない。全く対策の呈を為していない。

(記者)

そういった国のリーダーシップがなかなか発揮されないところで、秋田としてはこれからどう関わっていくつもりでしょうか。

(知事)

何十年間に積み上げたものを、ここ5年、10年で復旧・復興していかなければならない。この財源は国が考えなければならないが、いずれにしても民対民の取引です。被災地の産業界と、県内の産業界がどううまく補完関係を持てるのか、これが一番です。岩手県の工事は、当然地元優先になりますが、地元だけではできないものを、いかに秋田が、民対民の取引の中でスムーズにやっていくかという問題など、いずれ現地でできないことがたくさん出てきます。それを県内の産業界である程度フォローし、それが県内の産業界の商売にもなる。ちゃんとした民対民取引ができる形をつくっていくことが、秋田として一番復興への手助けになる。岩手も他の知事さんも、最終的に地元の企業でやりたいけれども、地元の企業にそれだけの力はないわけです。大手も出てくると必ず地元だけではできない。

対応力が必要なものについては秋田の企業に仕事がスムーズに行くように県が後押ししていくことがまず第1点。もう一つは、秋田の空間容量の大きさを生かした新エネルギー産業の創出など、秋田の様々な地域資源を新しい国づくりにどうやって生かしていくのかという提案をどんどんしていかなければならないと思います。

(記者)

秋田が復興にどうかかわるかということで、間もなく6月議会が始まりますが、今おっしゃったようなことが補正予算として提案されるという理解でよろしいでしょうか。

(知事)

例えば秋田港のコンテナヤードも第2期計画を前倒しする方向で検討しています。今、秋田の港が使われていますが、太平洋側の港が復旧してくれば、これは全部太平洋側に移ります。ただ、秋田の港を使ったという実績ができますので、秋田港のプレゼンスになったわけです。この後、復興資材の運搬だけでなく、日本海側の重要港湾として認知されるためには、我々もそれだけ施設を整えて使ってもらうことが必要ですから、県ができる範疇では最大限やる。日沿道の二ツ井白神ICも、既に新しい手法を検討していますので、そういうものに弾みをつかせることが必要です。あとは、自然エネルギーの特区申請をします。自然エネルギーは全県的に調査をしなければならない。孫さんのメガソーラー構想なども秋田は一番乗れます。直接的な震災の支援、避難者の受入も出てきますが、秋田の今までの方向とそう流れは変わらない、よりそれを加速させる、あるいは前倒しする入り口が6月の補正になると思います。

(記者)

6月議会の話が出ましたが、予算以外の防災関係、新エネルギー、経済などについて、6月議会ではどういう対応を考えていますか。

(知事)

やはり防災関係は特に津波を中心とした想定。想定外はないと言うけれど、想定しないと数字は出てこない。どうも日本人はその辺が論理的でなくなっている。想定外ということはないと言いながら、何かをするためには想定しなければならない。そういう意味では今、検討していますが、学問的なものですからそう簡単にはならない。想定した津波の学術的な(データが)出るのはもう少し先ですが、市町村にもある程度の財源的な支援をしながら、まず今の状態はどうなのか走りながら考えてもらって、我々の数字を後ではめ込む、これは非常に大事なことです。

今回現場に行って分かったことがたくさんあります。基本的に最近の効率化というものが全部駄目。災害用の備蓄は我々もそうですが、どこかの倉庫に入れている。気仙沼へ行ったときに担当者に聞きましたが、何千人も避難する体育館に備蓄物資を配送しようにも道路が瓦礫で埋まって届かない。備蓄物資は、避難所の人数ごとに、あるいはエリアごとに分散備蓄する必要がある。備蓄の集約化は愚の骨頂だということが今回分かりました。

また、最近の設備はコストがありますから、コンピューターで全部計算した限界強度で

作っています。こういった地震があった場合、意外と壊れやすい。昔の手計算では、なかなかそこまで出ませんから、我々も工学部で分かるけれども、厚さ、計算値で15ミリだったら3ミリぐらい増やして18ミリにする方が強い。最近の効率化、コスト重視というのは全部裏目に出ている。

それから、メンテナンスに金をかけない。外注のしすぎ。例えば、自家発電が動かない場合、昔は用務員さんがいて動かせる。最近では、全部外注で、一斉にあちこちで動かなくなるから、人が足りない。道路に被害があれば来られないなど、システムが自己完結型になってない。今までの流れをもう一回反省したくなります。効率化だけを追求するのではなく、むしろ無駄というか、プラスアルファの部分がないとこういうときに困る。私は、その辺がこれからの防災の大きな視点だと思います。あとは、マニュアル化の弊害。マニュアルを見ないと何もできなくなった。いろいろな反省の機会じゃないですか。

(記者)

予算査定概要ですが、補正予算の額をどの程度見込んでいらっしゃるのかということと、その後の震災対応や防災関係についてどのぐらい割くというお考えでいらっしゃいますか。

(知事)

大体一般会計で70億円程度。あと特会は港湾があります。直接的な震災対応は20億円ぐらい。あとは、いわゆる経済・雇用対策が入ってます。

(記者)

昨日発表された政府の社会保障のあり方について伺いたいのですが、2015年までに段階的に消費税10パーセントに引き上げる案が示されましたが、そちらについてお願いします。

(知事)

消費税そのものを否定しているわけではないが、大震災もあって日本の経済状況とタイミングがどうなのかということは議論の余地があります。それから、復興財源をどうするのかという点。我々としては、消費税を上げる際には自治体の自由度を高めるために消費税の一定割合を自治体に回すべきで、そのかわり、縛りのある補助金をその分減らせばいいということですが、今の与謝野大臣あたりは消費税の中の地方分などというのは余り目の中に入らないようですから、この辺はそう簡単ではないと思います。

もう一つ、社会保障のあり方そのものをどうするのか。今のルールで足りないからどんどん消費税を上げると、国の運営が成り立つのかどうか。社会保障のあり方は、決して水準を落とすという意味でなく、どういう形で国民が弱い立場にある人を支えていくのか、家族の支えがどうあるべきかという、暮らし方あるいは社会のあり方も含めて徐々に、全体として財政負担をある程度抑えていかないと、消費税が10パーセントで済まない、15パーセント、20になる。今後、日本の力を削がずにできるのかということが一番難しい。財源マターだけで考える問題ではないが、今は財源マターだけで考えている。ですからな

かなかこれは難しい議論が出てくると思います。

(幹事社)

よろしいでしょうか。

どうもありがとうございました。

(知 事)

はい、どうもありがとうございました。